

現場百景

Photo Report

フォトリポート

内子の仕事を写真で紹介します



7



8



1



6



10



9



11



5



4



3



2

1,2_深夜に稼働する2台の圧雪車 3_人工的に降らす雪のシャワーに濡れながら作業を続ける隊員たち 4_タイヤの異変に気づき、すぐに点検 5_圧雪車が正常に働くために、車体についた雪を落とすことが重要 6_白い息と背中の蒸気から熱さと寒さが伝わる 7_大量の水をマイナス2度以下の大気に飛ばして雪を作る 8_圧雪車についた硬い雪を、スコップなどを使って落とす 9_飛ばした水が雪になっているかを確認。雪はライトの上ではねる 10_ゲレンデを疾走するスノーモービル 11_明け方まで続く圧雪車の作業

降雪班

——雪上で働く男たち——

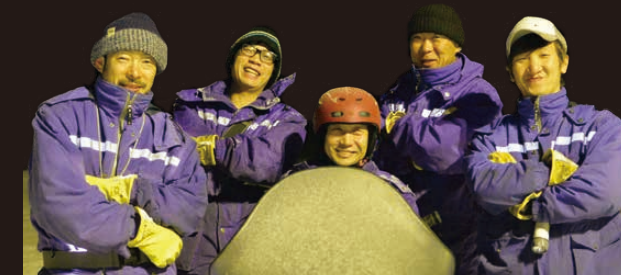
午後8時——。気温がマイナス2度以下になると、降雪班の隊員7人がゲレンデに次々と集まります。作業内容を入念に確認した後、防寒用の隊服に着替える隊員たち。泉田隊長の合図で、駆け足でそれぞれの配置につき、降雪の準備に取り掛かりました。

泉田隊長は「降雪で重要なのは気温と風向き。降雪機で飛ばす水は、マイナス2度以下じゃないと雪にならない。風の方向が変わり、降雪したいゲレンデ以外のところに積もってしまうこともある。毎日、ゲレンデの状況は違い、どこに雪を飛ばすかは経験が必要」と説明します。

隊員たちは総延長1600メートルあるコースをスノーモービルで走り回り、降雪機を調整しながら雪をコース一面に降らせます。降雪機の準備を任されている福本さんは「降雪はスキー場の重要な仕事。雪が無いと営業できないので、たくさん作れたときは、うれしい」と雪まみれの顔で笑います。

午前3時には圧雪車が出動。降雪機が作った雪を、泉田隊長と副隊長の相原さんとでならしていきます。泉田隊長は圧雪車を運転しながら、「雪をなだらかにならしていく作業は難しく、まだまだ。時間もかかり大変だけど、いいゲレンデができれば、お客さんが楽しそうに滑る姿が見られるので頑張れる」と話します。

すべての作業が終わったところには朝日が昇り、ゲレンデ一面の真っ白な雪がキラキラと光っていました——。



取材時に撮影した隊員の皆さん 左から。余田宣さん、福本和也さん、上田賢治さん、斎藤克彦さん、泉田大介さん（その他、相原竜士さん、末広一巳さんの7人が降雪班です）